

リンパ節

昭和医科大学臨床病理診断学講座

大平泰之

症例

30 代男性

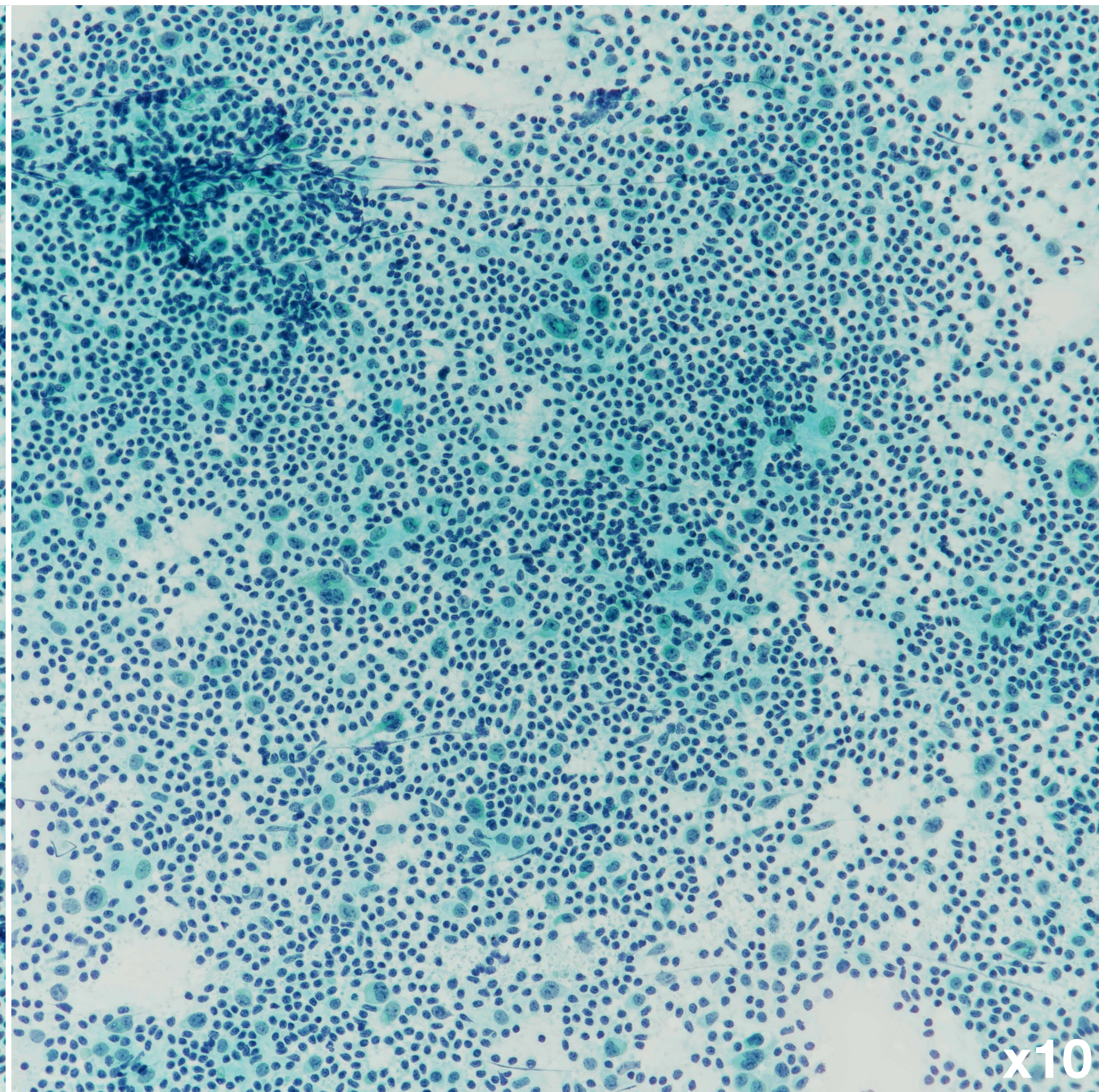
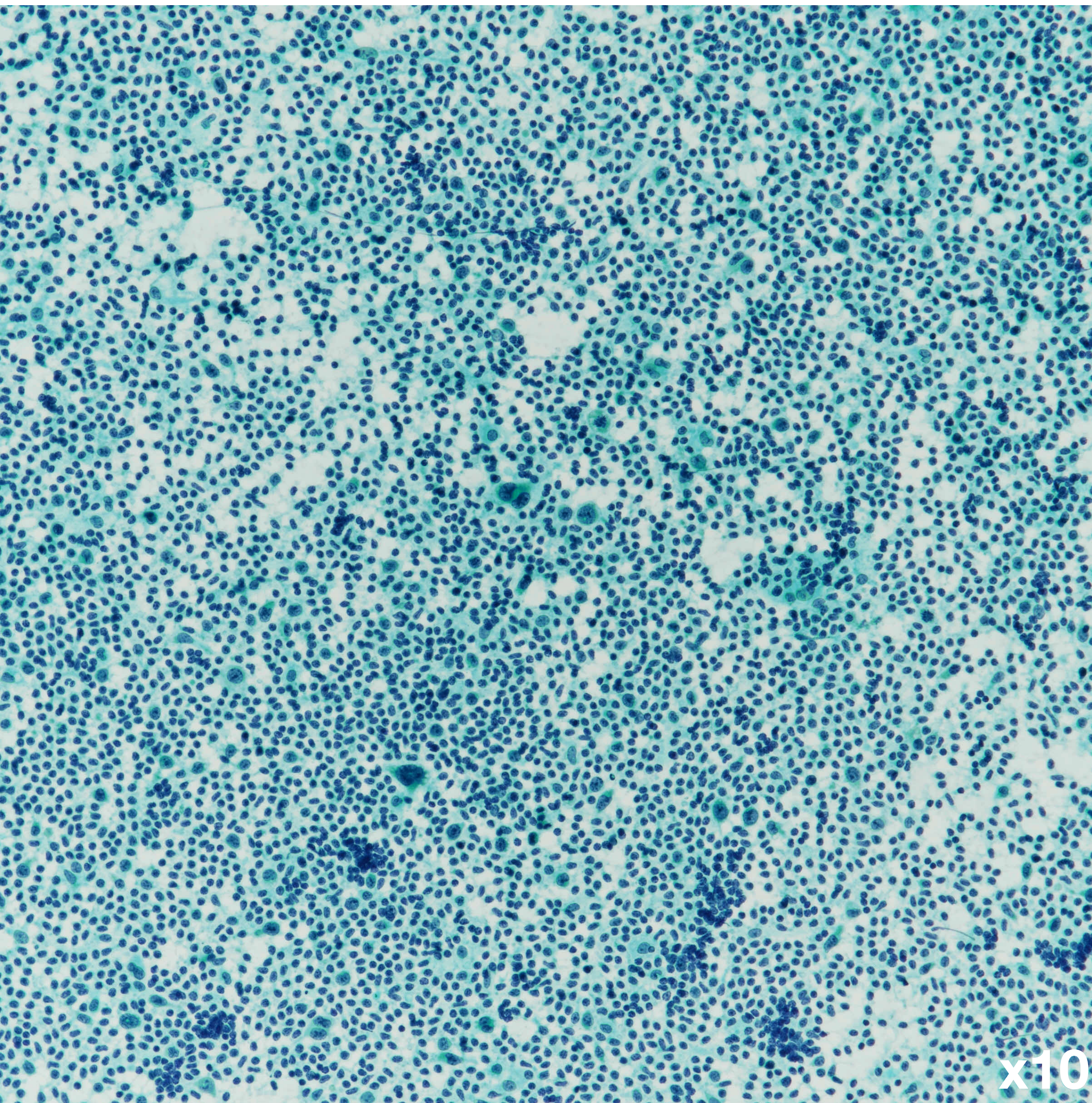
既往症: 気管支喘息、副鼻腔炎

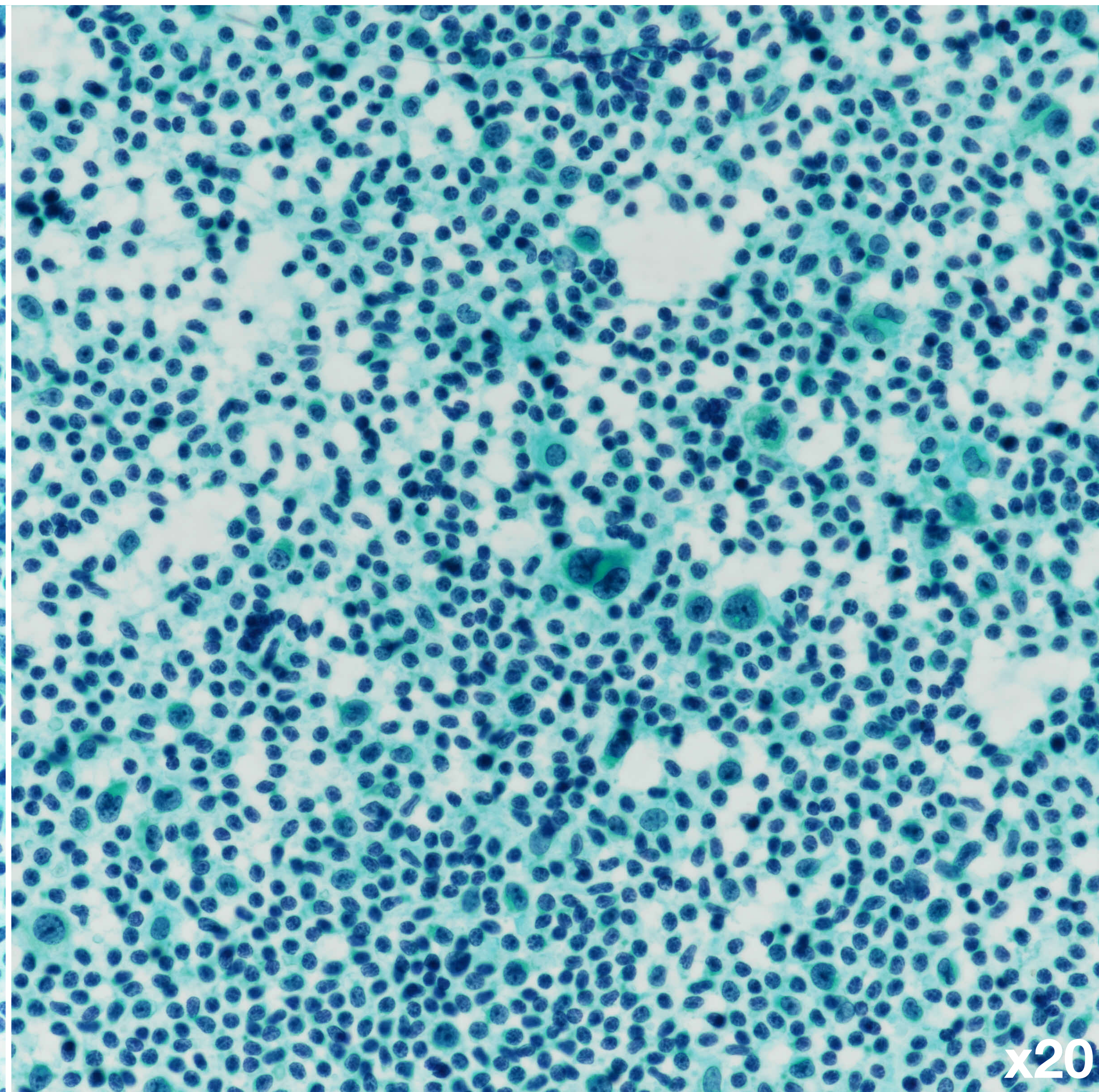
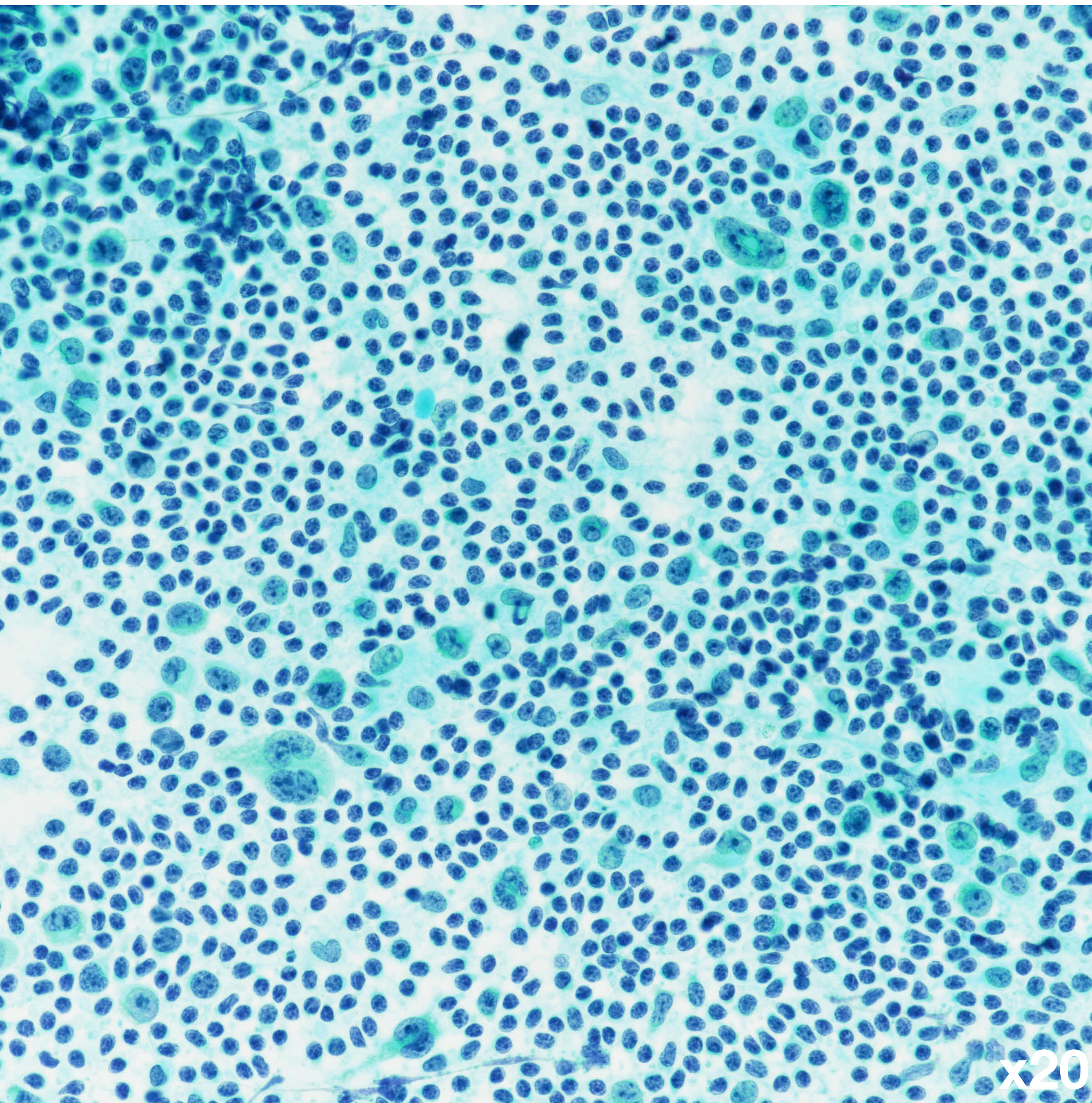
家族歴: 特記事項なし

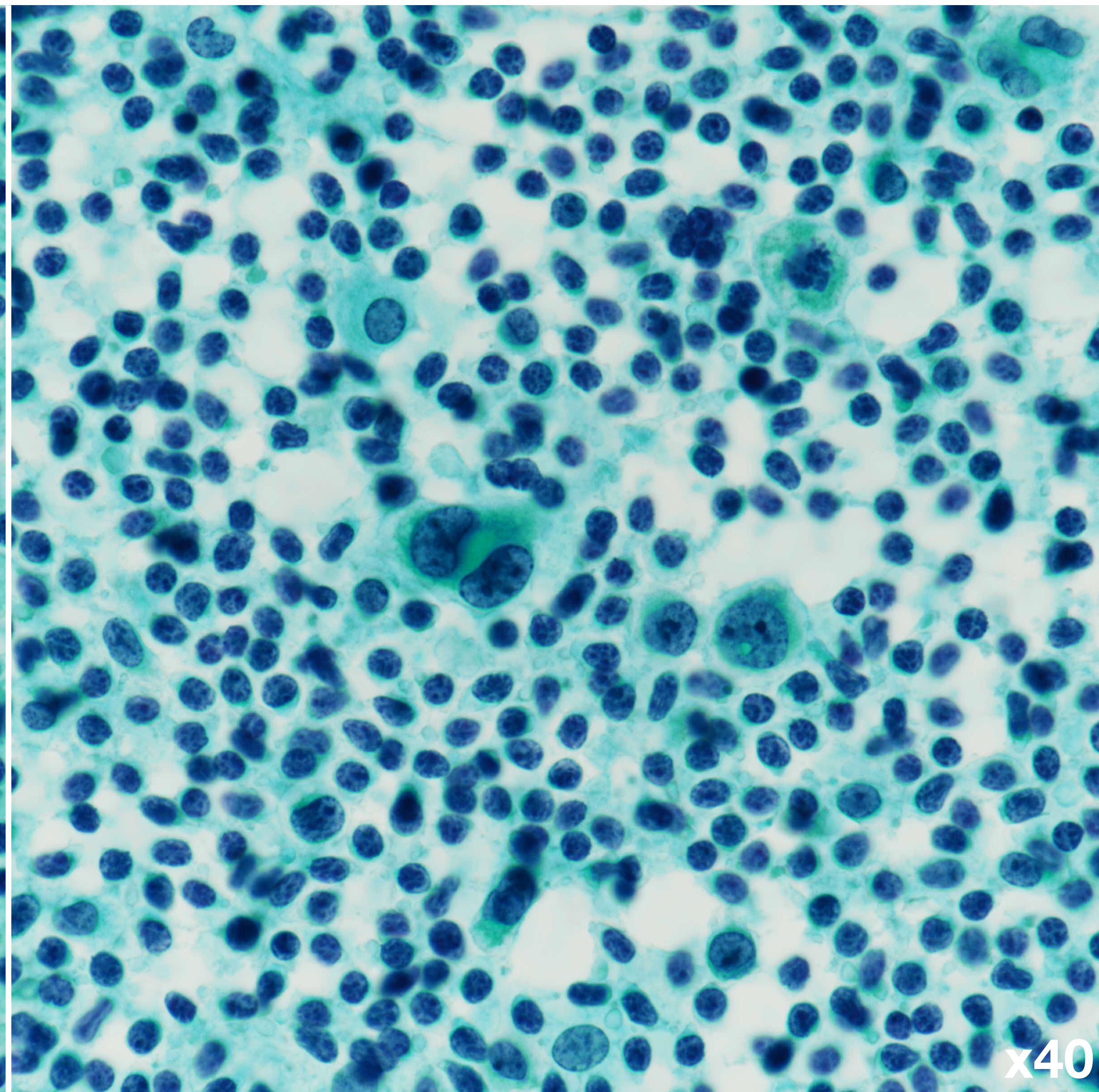
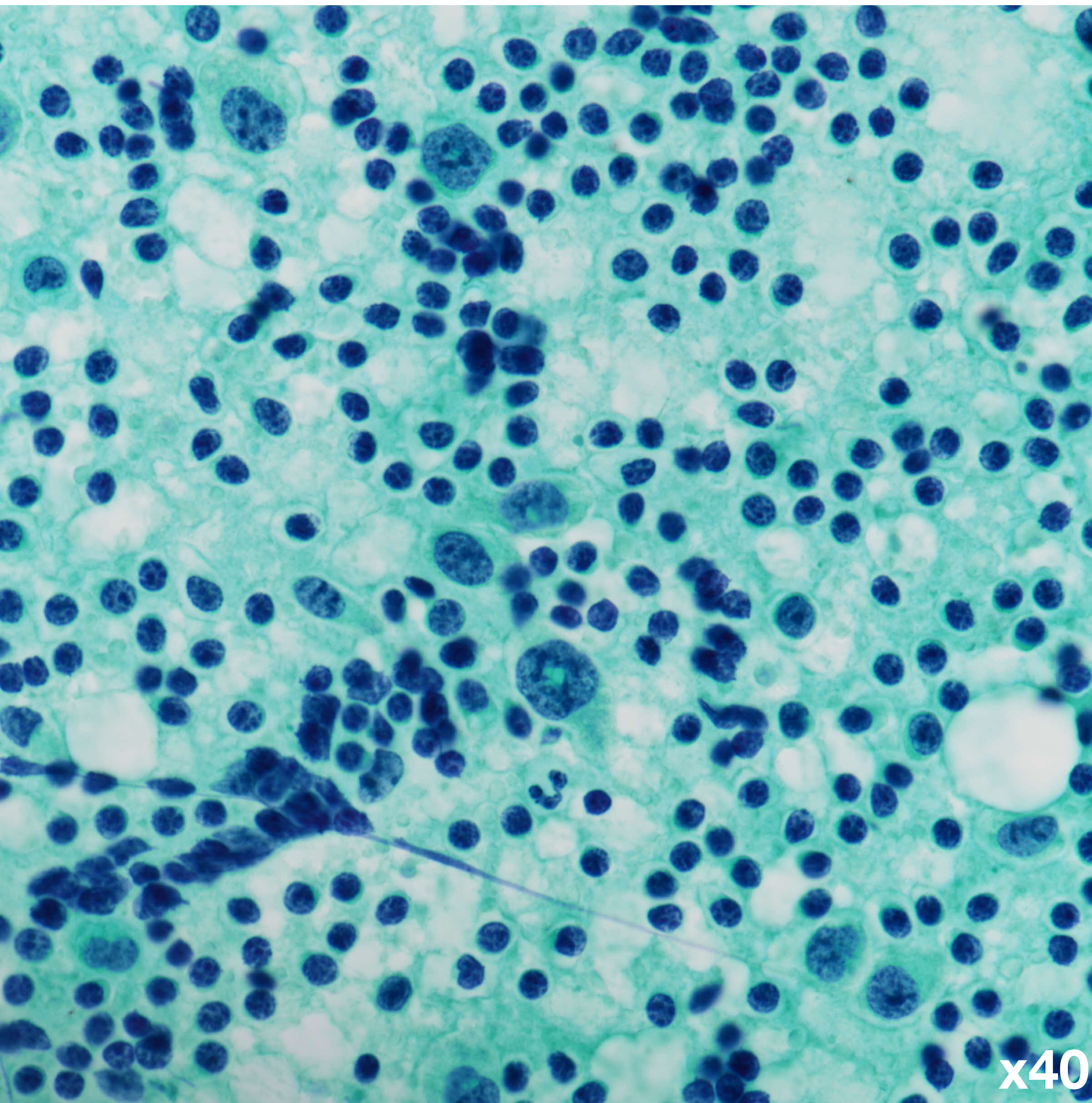
現病歴:

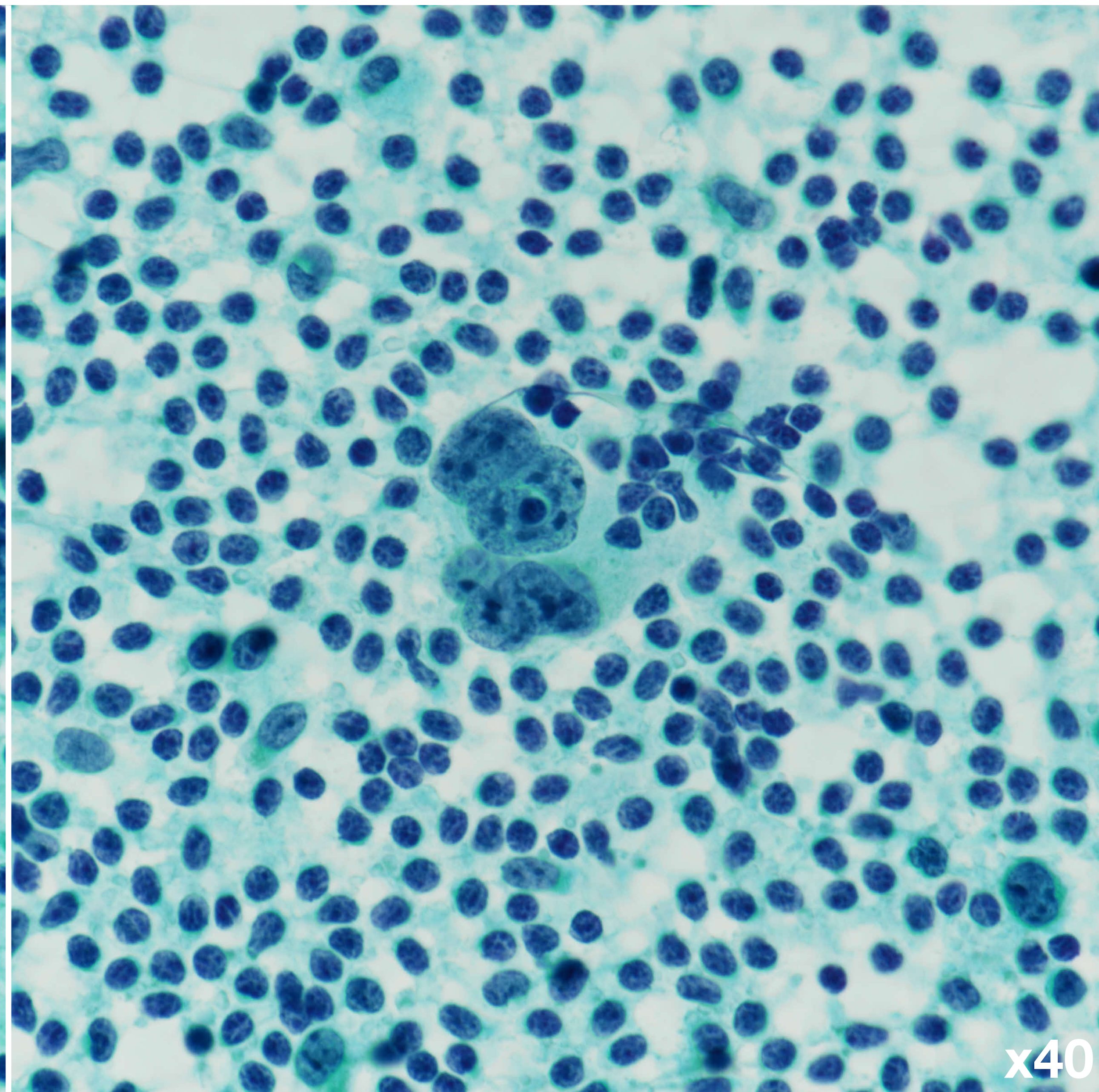
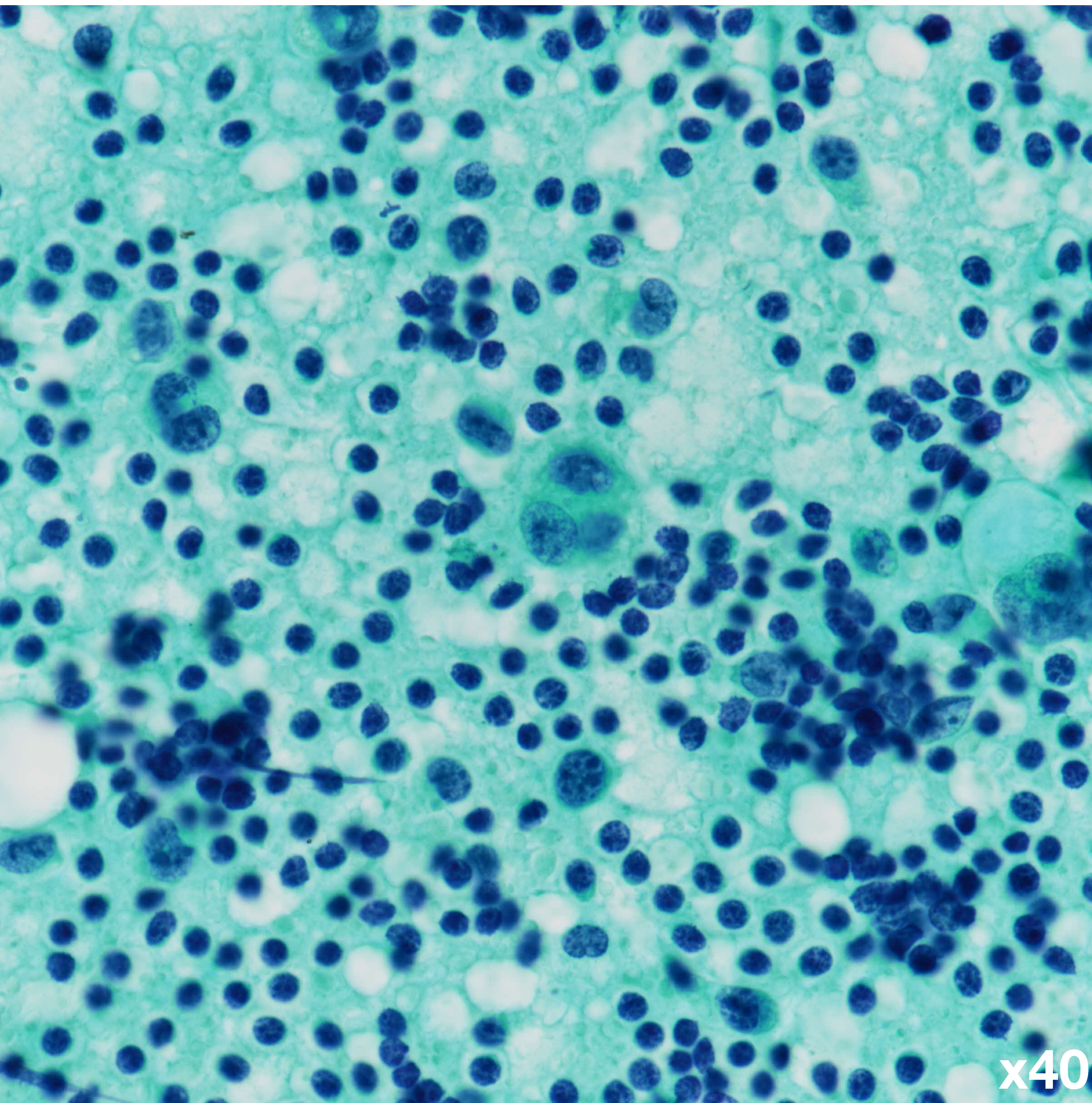
1 ヶ月前頃から左脇窩リンパ節腫脹と発熱が継続して前医を受診した。左背部に粉瘤が自壊した跡があり，同部位での感染によるものとして抗菌薬治療が行われたが，改善がみられないことから当院血液内科へ紹介となった。左脇窩以外に左頸部にもリンパ節腫脹がみられた。

検体: 左頸部リンパ節穿刺吸引









選択肢

1. **Classic Hodgkin lymphoma**
2. **Diffuse large B-cell lymphoma**
3. **Anaplastic large cell lymphoma**
4. 癌の転移
5. 反応性変化